

私立大学における JABEE 教育

竹内真司 (地質学会地質技術者教育委員会
日本大学 文理学部 地球科学科)

1. JABEE 教育の導入と運用の実態

本学科は、2003 年度に地球・資源およびその関連分野のプログラムとしては最初に認定された学科の一つであり、当該分野のプログラムの私立大学では唯一である。本学科における JABEE 教育の導入には、本学部の教育理念である文理融合の実現に加えて、社会のニーズに応じた応用理学としての技術者の養成という学科の課題を解決するための仕組みが必要との議論があったようである。

2003 年の認定以来、これまでに 2 回の継続審査 (2008 年、2014 年) と 2 回の中間審査 (2005 年、2011 年) を受審し、2020 年度は、コロナ禍で遅延しているものの 3 回目の継続審査を控えている。

当学科の JABEE プログラムは開始当初は、入学者全員 (70~100 名前後) を対象に、十数名と決して豊富とは言えない教員により運営されてきた。その後、入学者が多様化する中で、多くの学生全員を JABEE プログラムに沿った教育を施すことに対する教員の負担が増大して来たことなどから、2012 年度入学者からコース制を導入した。コース制では、当初、2 年次終了時点の成績が GPA 基準換算で上位約 25% の学生の中から、専門知識を活かした地球科学技術者をを目指す者を対象とした。JABEE 対象者を限定したことにより、教員の JABEE 教育への負担は軽減され、対象者へのきめ細やかな教育が実現された。JABEE コースの定員については、その後、学生からの要望や学科内に設置されている外部アドバイザー委員会での意見などを基に見直しを行い、GPA 基準で 2.5 以上の学生を対象としている。

2. JABEE 教育の有効性

JABEE の導入によって、学習・教育到達目標の設定とそれを達成するための適切なカリキュラムの設計、教育支援体制などの整備とこれに基づく

教育の実施が厳格化された。これにより、学生はバランスのとれた知識や技術を身につけるとともに、防災やエネルギー、地盤環境分野など実社会への適用事例を学ぶことで、関連専門分野について理解を深めることができている。また、コース制導入は、JABEE プログラム履修生だけでなく、同プログラムに移行できなかった学生の学習・研究意欲の向上にもつながっている。さらに、JABEE プログラム導入後、関連分野へ就職をした卒業生は、それぞれの組織において必要不可欠な人材として活躍している。JABEE プログラムの導入は、社会に求められる技術者の育成のみならず、個人のモチベーション向上にも確実に貢献している。

プログラム履修生の専門分野への就職 (以下、専門就職) に関しては、コース制導入前後での全学生に対する専門就職の割合は、3 割程度と明確な差はないが、コース制導入後のプログラム履修生における専門就職の割合は 5 割以上 (2019 年度は約 7 割) であり、履修生の専門就職への意欲の向上につながっている。

3. 課題

2003 年度のプログラム認定開始から 17 年が経過し、この間に JABEE 立ち上げ時の教員のほとんどが退職している。今後は、次世代のスタッフへのプログラム運営のノウハウの継承やプログラム継続のモチベーションの維持などが課題である。また、令和元年度の文部科学省の「学校教育法施行規則」の改正に伴う 3 つのポリシー (ディプロマ、カリキュラム、アドミッション) の策定・公表により、JABEE 教育と類似した教育システムが全学で導入されたことにより、今後、JABEE プログラムを継続することについての理解を得ていくことは必ずしも容易ではないと考えている。

4. 今後の展望

今後は、JABEE プログラムのメリットである定期的な審査による教育の質の保証や技術士補相当の資格取得などについてより強くアピールするとともに、多数の卒業生を有するという本学のメリットを生かし、卒業生が在籍する関連専門企業へ就職を促すようなシステムの構築を検討している。